

協議会ニュース

No. **158**
2018. 3



Contents

02	【お知らせ】 平成 30 年度通常総会・記念講演会	事務局	石原 則義
03	研修報告 稲武 面ノ木～茶臼山高原 研修観察会に参加して	名古屋支部	平山 希能
04	研修報告 自然史博物館の活動を知る	東三河支部	岩崎 員郎
05	尾張支部総会報告 東三河支部総会報告	尾張支部 東三河支部	内海 勇夫 寺本 和子
06	私の活動紹介	西三河支部	馬場 隆之
07	【連載】 竹クラフト第四回「花瓶」	名古屋支部	高木 和彦
08	平成 29 年度第4回理事会報告	事務局	石原 則義

今号の表紙

「マメナシの実生マーキング」石原則義（名古屋支部）

平成 30 年度

通常総会・記念講演会

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を下記の通り開催いたします。総会は一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定します。日頃出会う機会の少ない遠方の会員の皆様との交流の場にもなります。是非、皆様ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：平成 30 年 3 月 21 日（水・春分の日）13:20 ～

場所：日本特殊陶業市民会館 3 F 第 1 会議室 Tel (052) 331-2141

名古屋市中区金山 1-5-1（金山駅北口から徒歩 5 分）

名札をご持参
ください

＝ 次第 ＝

13:00 受付開始

13:20 平成 30 年度通常総会開会宣言

- 1) 総会参加者数の報告
- 2) 平成 30 年度の協議会各理事紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事

①第 1 号議案 平成 29 年度事業報告

②第 2 号議案 平成 29 年度決算報告
監査報告

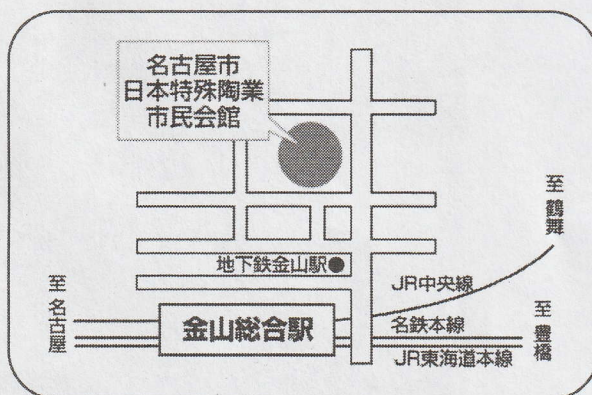
③第 3 号議案 新役員承認

④第 4 号議案 平成 30 年度事業計画(案)

⑤第 5 号議案 平成 30 年度予算(案)

⑥質疑応答・その他

14:20 総会終了宣言



多田多恵子さん

～～ 休憩 ～～

14:30 講演会・情報交換会

演題：「植物のスゴ技・タネと花粉の輸送作戦」

講師：多田 多恵子 氏

東京都生まれ。東京大学大学院博士課程修了、理学博士。植物の繁殖戦略、虫や動物との相互関係などを調べ、観察会や「NHK 子ども科学相談」など啓蒙活動にも力を注いでいる。『身近な草木の実とタネハンドブック』など著書多数。ここ数年は東海丘陵要素植物に魅せられて岐阜・愛知・三重の周辺に足繁く通っている。

16:20 閉会・後片付け

16:25 会場退出



多田多恵子氏著『身近な草木
の実とタネ ハンドブック』

※ 当日の緊急連絡先 事務局：石原携帯・090-8607-6712（当日のみ）

総会終了後、懇親会 17:00～（希望者は事務局に事前連絡を）

稲武 面ノ木～茶臼山高原 研修観察会に参加して

名古屋支部 平山 希能

植物の名前もほとんど知らない私ですが、晩秋の紅葉を楽しむ魂胆で参加させていただきました。

11月3日(祝)、天候は晴れ、「ドングリの里いなぶ」で合流された方を含め23名(名古屋支部20名、尾張支部1名、知多支部1名、講師1名)で面ノ木園地へ向けて出発。

一昨年に中学校の野外活動の手伝いで下見に訪れて後、当日が雨天中止や取りやめなどで機会が無かったため、記憶も薄れかけていました。

この時期では多分遅くて見られないと思っていたリンドウやマツムシソウをじっくり見ることができ、嬉しい気分のまま井山頂上にある風力発電の風車をめざして片道約1kmの舗装路を進んでいき・・・否、サルナシの味見やセンブリの花探し、マンネンスギの胞子飛ばしなどで、なかなか進みません。

1時間ほどかけて到着した標高1195mの展望台からは、北方向に恵那山や御嶽山、南東方向には南アルプスの山並みが水墨画のように見えました。



▲面ノ木園地

茶臼山高原道路の紅葉に見とれてミスコース、他の人たちよりも遅れてたどり着い

たところは、愛知県でも岐阜県でもなく、長野県でした。茶臼山からの湧水が三本のパイプから流れ出ていましたが、そこにミゾソバの花がありました。小幡緑地でも繁殖していますが、これならば、矢作川全域に進出しているかも、としばし空想。

根羽村のパワースポットらしく、石製のお社や白蛇の飾り物が置かれていました。



▲矢作川源流

矢作川源流から約1km下ったアテビ平小鳥の森の広場にあるアスナロの葉はYでもHでもない変わった模様。

休憩所に21種の野鳥の絵が掲示してありましたが、残念ながら野鳥の姿は見えませんでした。

表示板には「アテビとはアスナロの方言で、クロベのことを指します。」とあり、黒部溪谷に由来するとも書かれていました。



▲アスナロの葉

自然史博物館の活動を知る

東三河支部 岩崎員郎

愛知県自然観察指導員連絡協議会東三河支部では、年2回日帰りの研修会を計画しています。今回、豊橋市自然史博物館の活動を理解するため、研修会を開きました。

○日時 平成29年11月11日(土)

○場所 豊橋市自然史博物館

○講師 安井主任学芸員

○参加者 東三河支部会員17名

豊橋市自然史博物館は、1988年「生物の進化」と「郷土の自然史」をテーマに設立され、動物園、植物園、博物館が合体した総合的な施設は全国でここだけです。学芸員は、地学系スタッフ4名、生物系スタッフ4名の8名です。標本は整理されたものでおよそ50万点を収蔵しています。

博物館の役割は、①収集・保管、②調査・研究、③教育・普及にあり、市民と共に活動していくことにあります。

○ 安井主任学芸員の講話

安井さんは魚類以外の脊椎動物を担当し、日本の哺乳動物の変遷を研究しています。脊椎動物の死体収集、骨格標本の作成を通して東三河地方の生息状況を調査しており、遺跡から出土される動物骨の調査もしています。

過去に豊橋市高塚町に打ち上げられたマッコウクジラを例に、骨格標本作製の行程をスライドを使い、わかりやすく説明していただきました。また、スナメリの死亡個体を収集し、年齢、死亡時期等からスナメリの生態を推測する興味深い説明もありま

した。

講話の後、学芸員、資料整理ボランティアの実質的な活動場所であるバックヤードを見学しました。



動物の骨があふれた脊椎動物作業室の見学

整理された多くの標本が収蔵されている収蔵庫の見学は、2班に分かれて行い、待機班は、東三河支部会員で博物館ボランティアでもある神戸、岩崎がボランティアの活動について説明しました。

博物館がどのような活動をしているか理解し、その運営は、ボランティアの活動に少なからず支えられていることもわかりました。また骨格標本ができるまでの説明では、完成までの作業の大変さに驚きました。博物館では動物の標本を収集していますが、死亡個体を見つけた場合、博物館へ届ける方法もわかりました。学芸員の仕事や博物館の役割など、普段あまり考える機会がないので、興味を持って研修することができました。

尾張支部総会報告

尾張支部 内海 勇夫

日 時：1月8日(月・祝)13:30～

場 所：東桜会館(名古屋市東区)

出席者：14名

尾張支部の総会は14名の参加で開かれ、平成29年度事業報告・決算及び監査報告と平成30年度の役員、事業計画及び予算が承認されました。

定例観察会は10箇所、不定期の観察会「稲作り体験と観察会」を今年度も行う予定です。

定例会では、尾張北部が毎回場所をかえて、色々なところで観察会をしており、今年度の研修会も尾張北部が行った観察会の場所で行う予定です。また木曽川下流で見つけたキツネの穴の話や、築水池の観察会を平日に行いたい旨の話がでました。

一泊研修は熊野古道方面で、9月29・30日の予定です。研修会は、アライダシ自然観察教育林を考えています。あいちの自然観察会は、夏休み中の平日、川の生き物の観察を検討中です。

総会に引き続いて開かれた交流会では、大谷さんから花粉を集める虫たちの貴重な写真や、その不思議な行動を紹介してもらいました。

また、齋竹さんからは、尾張西部生態系ネットワークの活動について、尾張支部の観察会で作ったポスターの紹介とその活動について話がありました。

尾張支部 平成30年度役員

会 長：松尾 初
副 会 長：平井 直人
事 務 局：内海 勇夫
会 計：霜 佳子
通信編集：高谷 昌志
通信発送：出口 慎治
HP管理：山田 博一

東三河支部総会報告

東三河支部 寺本 和子

日 時：2月10日(土)14:00～15:45

場 所：豊橋市民センター

出席者：35名、委任状33名(全会員数81名中)

平成29年度事業報告・事業会計収支報告、30年度の事業計画・収支予算について異議無く承認されました。また、東三河支部は特定非営利活動法人であるため、平成28年の特定非営利活動促進法の改正により定款の一部(公告の方法)を変更する必要が生じましたが、これも異議無く承認されました。

他に、体の不自由な参加者への対応について話し合いました。たとえ体が不自由でも、自然との触れ合いを求める参加者を可能な限り受け入れること、万一のために連絡先を聞いておくこと、会員の何人かが付き添い、その人の負担にならないように見守ることなどを会員同士で心がけることとして、了解されました。

総会後は、瀧崎吉伸会員から「愛知県の外来種」と題する卓話がありました。近年侵入した外来種の情報は、その存在に興味を持つ自然観察者からもたらされることが多いため、情報を得た場合は皆で共有できるようにしたいこと、一部には駆除がほぼ成功したと思われる種もあるが、次から次へと新しい外来種の侵入が見られることなど、実物の写真のスライドを用いて提示されました。

その後、場所を移して懇親会が開催され、おいしい食事と飲み物とともに、楽しい会話でしばしの時を過ごしました。

東三河支部 平成30年度役員

会 長：寺本 和子
副会長：影山 博史(兼事務局長)
岩崎 員夫(兼会計)

稲武 面ノ木～茶臼山高原 研修観察会に参加して

名古屋支部 平山 希能

植物の名前もほとんど知らない私ですが、晩秋の紅葉を楽しむ魂胆で参加させていただきました。

11月3日(祝)、天候は晴れ、「ドングリの里いなぶ」で合流された方を含め23名(名古屋支部20名、尾張支部1名、知多支部1名、講師1名)で面ノ木園地へ向けて出発。

一昨年に中学校の野外活動の手伝いで下見に訪れて後、当日が雨天中止や取りやめなどで機会が無かったため、記憶も薄れかけていました。

この時期では多分遅くて見られないと思っていたリンドウやマツムシソウをじっくり見ることができ、嬉しい気分のまま井山頂上にある風力発電の風車をめざして片道約1kmの舗装路を進んでいき・・・否、サルナシの味見やセンブリの花探し、マンネンスギの孢子飛ばしなどで、なかなか進みません。

1時間ほどかけて到着した標高1195mの展望台からは、北方向に恵那山や御嶽山、南東方向には南アルプスの山並みが水墨画のように見えました。



▲面ノ木園地

茶臼山高原道路の紅葉に見とれてミスコース、他の人たちよりも遅れてたどり着い

たところは、愛知県でも岐阜県でもなく、長野県でした。茶臼山からの湧水が三本のパイプから流れ出ていましたが、そこにミゾソバの花がありました。小幡緑地でも繁殖していますが、これならば、矢作川全域に進出しているかも、としばし空想。

根羽村のパワースポットらしく、石製のお社や白蛇の飾り物が置かれていました。



▲矢作川源流

矢作川源流から約1km下ったアテビ平小鳥の森の広場にあるアスナロの葉はYでもHでもない変わった模様。

休憩所に21種の野鳥の絵が掲示してありましたが、残念ながら野鳥の姿は見えませんでした。

表示板には「アテビとはアスナロの方言で、クロベのことを指します。」とあり、黒部溪谷に由来するとも書かれていました。



▲アスナロの葉

竹クラフト 第四回

花瓶

名古屋支部 高木和彦

第四回は実用的な物(?)
竹の花瓶です。色々なデザ
インの物が出来ますが今
回はその一例を紹介しま
す。

上下に節が有る竹 (モ
ウソウチクでもマダケで
も可) とその中に入るコッ
プやビンを用意します。下
の節が底、上の節が取っ手
になります。

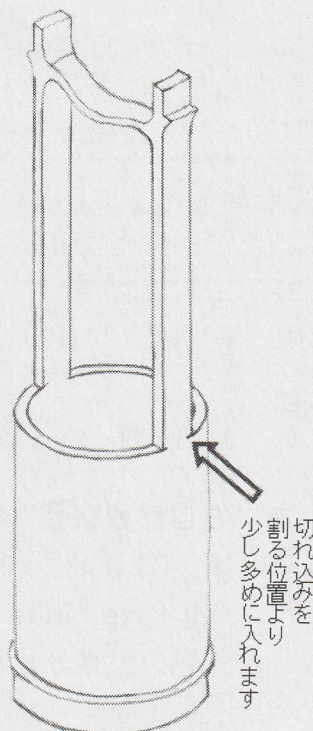
まず、どのような仕上がり
にするか竹に下書きを書
いておきます。両方からの
切れ目の高さを合わせ、竹
に直角にきっちり作りたい時は、紙を巻き
付けて線を引いています。この時、紙の中
で出来た円筒に対して紙の端面が直角にな
っています。

横から途中までノコ
ギリで切れ目を入れま
す (図の矢印、点線の所)。
完成時に取っ手になる
部分より少しだけ多目
に切れ目を入れます。そ
の為に、竹の繊維の向き
を良く見てどの様に割
れるか予想します。少な
いと、後でナタを入れた
時に下まで割れてしま
います。多いと切れ目が
沢山残って見た目が悪
くなります。

今度は上からノコギ



下書き



切れ目のポイント

リで節の下まで切れ目を入
れます。

ナタを切れ目に入れて
木槌かゴム槌で叩いて縦
に割ります。

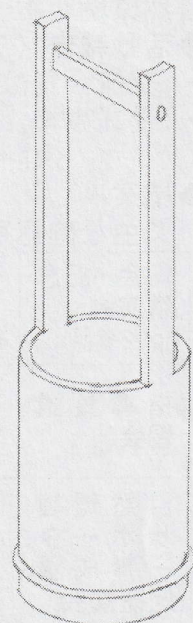
後はナイフやヤスリ、サ
ンドペーパーを使って、バ
リを取ります。

中にコップやビンを入
れて花瓶とします。

節を取っ手に使うのは
適当な節間の物が無いと
出来ません。その為、右図
の様な物も作ります。竹で
取っ手の部分を作り、ドリルなどで穴をあ
けた所に、竹の弾性を利用して差し込みま
す。少し長めの取っ手を差し込むと上が開
いたようになります。

す。又、竹の緑
色の皮を取っ
てしまうデザ
インも有ります。
皮を取って
しまうと割れ
にくくなります。

色々なデザ
インを考えて
工夫してみ
て下さい。



完成図



「取っ手」上開タイプ

日 時：平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)13:30～ 場所：阿久比町中央公民館
出席者：大谷、星野、堀田、石原、長谷川、久米、永田、布目、新山、石川、浅井、齋竹、
滝田、榊原、三田、寺本

◆大谷会長の司会・進行

いつも、時間切れで最後まで審議しきれないので、今回は、2018 年度の指導員講習会・自然環境サポーター養成講座研修会をどうするかの話合いから始めた。

◆活動報告（7 月～11 月）

- ・ 交流会費は、当協議会の経理規定に基づき支払うことを確認。
- ・ 受託事業「豊田市稲武・自然観察」は、双方のコースについての思い違いから中止となった。次回実施するとすれば、コースの擦り合わせを検討しなければならない。

◆議案

<主な確認事項>

総会・記念講演会 (p. 2 参照)	総会・記念講演会の講師を多田多恵子氏、演題は「植物のスゴ技・タネと花粉の輸送作戦」とした。協議会会員は無料。協議会会員以外の方からは、資料代として、300 円徴収することにした。
指導員講習会	2018 年 11 月に三重県で指導員講習会が開催されるため、本協議会としては、県内で指導員講習会の宣伝、希望者を募り三重連絡会に協力することとし、愛知県での開催は 2019 年度実施を目指すこととする。
自然環境サポーター養成講座研修会	「あいち森と緑づくり環境活動推進事業」交付金を受け、2017 年 7 月に「子どものための自然観察会」の指導者養成講座を開催した。「センス・オブ・ワンダー キッズ自然観察会」の経験を次年度にも活かしたいと 2018 年度も自然環境サポーター養成講座を開催するかどうかを検討したい。
協議会交流の日	2018 年度は、西三河支部が担当する。
役員改選	任期満了に伴い継続を辞退される方については、各担当・支部で責任を持って補充をして欲しい。広報は事務局案がある他、編集長は現編集委員から、名簿担当・会計担当も、それぞれ引き受けていただけた方ができた。会計が理事とならない場合は規約改正が必要。編集委員の募集は継続中。

◆会計より(大谷会長より)

今後、愛知自然環境課主催で行われる「ステップアップ研修」講座を受講した方で、県協議会の広報を担当してくれる者に交通費を支給することにする。

(次回 第 5 回理事会 2 月 12 日(月・祝)13:30～ 名古屋支部担当)

<編集後記>今号を最後に、編集担当理事を辞任することといたしました。皆様、長い間大変お世話になりました。色々ご協力いただき誠にありがとうございました。(久米)

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
協議会ニュース編集部	久米未祐 TEL:090-3302-1621 E-mail:ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail: norimameobata@yahoo.co.jp Web Page: http://naichi.net
郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）